



interview

MOMO KODAMA

オリヴィエ・メシアンの音楽との対話に見いだされるもの

かねてから20世紀を代表する作曲家・メシアンの作品に特別な思い入れを持ってきた児玉 桃。彼女が記念年に行うメシアン・プロジェクト2008は、作曲家へのひとかたならない情熱とオマージュに満ちたものになりそうだ。その心境を一時帰国した児玉 桃に聞いた。

文 = 片桐卓也 (音楽ライター)

作曲家メシアンとの出会い

この秋に開催される「メシアン・プロジェクト」は20世紀を代表するフランスの作曲家オリヴィエ・メシアン(1908～1992)の生誕100周年を祝うもの。彼の没後10周年に素晴らしい演奏会を聞かせてくれた児玉桃が、改めてメシアン作品を様々な形で取り上げる。彩の国さいたま芸術劇場音楽ホールでは、その第1回と第3回が開催される。

「パリ国立高等音楽院に入学した頃、メシアン先生はまだご存命でしたが、授業はなさっていませんでしたね。でも、奥様でピアニストのイヴォンヌ・ロリオ先生を通してお付き合いはありました。最初のメシアン作品との出会いは、エピナル国際コンクール(1986年)。1940年以降に作曲された作品を演奏しなければならなかったため、《幼子イエスに注ぐ20のまなざし》から1曲を選んで演奏したのが、最初です」

10代の初めからメシアン作品に親しみ、またメシアンのオルガン即興演奏な

どを聴いてきた児玉桃は、メシアンの音楽にずっと魅了されてきた。

「音楽院ではいま生きている作曲家の作品を演奏させられることも多かったのですが、それらに較べると、メシアンの作品は、リズムも調性もきちんとしていて、むしろ古典に近い作品だと感じていました。一度も現代音楽と思った事はありません(笑)。メシアンの作品の中には、テーマの神秘性、色彩、リズム、メロディと豊かな要素がたくさん含まれていて、とても親しみやすいと思います」

メシアンの音楽からの恩恵を感じてほしい

例えば第1回(9月13日)の「レクチャー&コンサート」で演奏される《鳥のカタログ》という作品がある。これはメシアンが世界各地で出会った鳥の声を元に作曲したソロ・ピアノ曲(1956～58年作曲、全13曲)である。

「鳥の声が主役なのですが、それだけでなく、そのまわりの自然の風景～海の音、カエルの鳴き声、森のささやき、そして鳥の鳴いている時間も表現されているんです。

朝の湿った感じの空気とか、そういうものもすべて想像出来るように書かれています。驚異的なのはメシアン先生の音の混ぜ方で、こういう風に音を使うとカエルの声表現できるのかなど、発見することが多いです。もちろん音色だけでなくリズムも複雑なので、それを理解して表現するまでに時間がかかりますが」

この《鳥のカタログ》を勉強する際に、本物の鳥の声を集めたCDを児玉は聴いていたという。新幹線の中でそれを聴いていたら、初めて音が洩れて気になると注意された。



「鳥の声というのは、ものすごく遠くまで通るものなんだと実感しました。その広がりやメシアンの音楽は表現しているんですね」

第3回(10月25日)には、姉・児玉麻里とのデュオでラヴェル、モーツァルト、メシアン作品を演奏する。

「お互いの音楽がとても良く分かっているという点で、姉は最高のパートナーです。姉の演奏をずっと聴いて育って来ましたし、姉もそうです。だから、単に練習で息が合うというだけでなく、実際の演奏会の時に、瞬間的にお互いが何をしたいのかが分かるし、新しいアイデアを感じた時に、パツと反応出来るんです」

ふたりで演奏するメシアン《アーメンの幻影》(1943年作曲)は、メシアン自身とロリオ夫人が演奏するために書いた作品。

「簡単に言えば、メシアンの演奏する部分はメロディ的、ロリオ先生の演奏する部分はリズム的と分かれています。姉とはメシアン作品のイメージが共通しているので、とても演奏しやすいです。また他に選んだのはメシアンが好きだった作曲家の作品。メシアンとのつながりを感じて頂ければ嬉しいです」

カトリック的な信仰と同時に自然の神秘性を感じさせるメシアン作品。最良の解釈者である児玉の演奏を通して、この秋にはそれを感じてみたい。



児玉 桃 (ピアノ)

幼少の頃よりヨーロッパで育ち、パリ国立高等音楽院に学ぶ。1991年、ミュンヘン国際コンクールに最年少で最高位に輝く。その後、ケント・ナガノ指揮ベルリン・フィル、小澤征爾指揮ボストン響、モントリオール響など、世界のトップ・オーケストラと共演。ソロ、室内楽においても世界の主要国際音楽祭などで活躍。今年にはルツェルン音楽祭への参加を予定している他、水戸室内管弦楽団とのヨーロッパ公演のソリストにも抜擢された。2007年メシアン国際コンクール審査員。パリ在住。

●●●● MUSIC ●●●●

メシアン生誕100年記念特別企画 児玉 桃 メシアン・プロジェクト2008

★全5回シリーズ券:18,000円 ※プロジェクトの詳細は財団ホームページ及び<http://kodama2008.com>

〈第1回〉レクチャー & コンサート 「メシアンの世界への誘い」

【日時】9月13日(土) 開演 14:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【出演】児玉 桃 (トーク&ピアノ) 野平多美 (ナビゲーター) 茂木健一郎 (ゲスト)
【チケット(税込)】好評発売中 2,000円

野平多美 (作曲家・音楽評論家)

パリ国立高等音楽院作曲理論各科卒業。1990年帰国。以来、2002年まで国立音楽大学、東京学芸大学等で教鞭をとるほか、作曲・編曲活動とともに、音楽評論や企画など、幅広く活躍している。現在、アフィニス文化財団AES 専門委員。著書に「魔法のパゲット～マエストロ・ジャン・フルネの素顔」などがある。

茂木健一郎 (脳科学者)

ソニーコンピュータサイエンス研究所シニアリサーチャー、東京工業大学大学院連携教授、東京藝術大学非常勤講師。クオリア (感覚の持つ質感) をキーワードに脳と心の関係を研究している。NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」キャスターを務め、音楽への造詣も深い。

〈第3回〉児玉麻里&桃 ピアノ・デュオ 「《アーメンの幻影》とメシアンが愛した作曲家たち」

【日時】10月25日(土) 開演 14:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール 【出演】児玉麻里 児玉 桃 (ピアノ・デュオ)

【曲目】ラヴェル: マ・メール・ロワ モーツァルト: 2台のピアノのためのソナタ 二長調 KV448 (375a)
メシアン: アーメンの幻影【チケット(税込)】好評発売中 一般:S席4,000円/A席3,000円/学生A席1,000円
メンバーズ:S席3,600円/A席2,700円

児玉麻里 (ピアノ)

パリ国立高等音楽院卒業。プゾーニ国際コンクール等、数々の国際コンクールで優勝、上位入賞を果たす。ロンドン・フィル、ベルリン・フィルとの共演などをはじめ、欧米各国で活動を開始し、オーケストラとの共演、リサイタル、音楽祭への出演等、精力的な演奏活動を展開。1995年にはカーネギーホールでニューヨーク・デビュー。ロサンゼルス及び東京での「ベートーヴェン・ピアノ・ソナタ全曲演奏会」は高い評価を得た。